



福音讃美歌 ジャーナル

福音讃美歌協会

新しい歌を
主に歌え

■巻頭言 ■ 「新しい歌を主に向かって歌え」

代表理事 安藤能成

待ち望まれていた『教会福音讃美歌』が出版されました。みなさまの祈りと作業を進めてくださった方々の熱意と教会の主であるイエス・キリストと聖霊の助けによって主なる神への賛美と、みことばの宣教のための讃美歌が出来上がったことは大きな喜びです。また出版と同時に在庫切れになったことは申し訳ない思いとともに、私たち福音讃美歌協会理事会が予想していたよりもニーズが多かったという驚きになりました。ご迷惑をおかけしている教会にも出来るだけ早くお届けできるように手配しています。

私が担任している教会でも9月第1主日礼拝から採用しています。歌いなれたメロディーの賛美を新しい歌詞で歌うことは会衆のある人々にとっては戸惑いもあるでしょう。けれども作詞、訳詞の意図を解説した上で歌ったとき、納得の表情を見ることができます。そしてまったく新しく採用された讃美歌に出会うときには新鮮な賛美の気持ちに導かれます。

10月には札幌で「教会福音讃美歌を歌うタベ」、御茶ノ水でOBI主催「教会福音讃美歌セミナー」が、11月には東京で「教会福音讃美歌奉獻礼拝」が開催されます。それらの催しでは『教会福音讃美歌』を色々な伴奏スタイルで演奏する試みもします。あらゆる状況での礼拝場面でこのように用いることができますというデモンストレーション的な意味も込めています。礼拝賛美では伴奏楽器はオルガンに限るという条件は日本では難しいでしょう。またオルガンやピアノが備えられていない教会もありますし、有っても奏楽者不在という状況もありえます。ピアノは弾けるけれど四声の楽譜どおりでは弾けないという人もいます。そのような人のために、あるいはギターしかありませんという場合でも対応できるように和声コードがつけられていますから大丈夫です。ということで器楽バンドによる伴奏も準備されています。

『教会福音讃美歌』を用いての礼拝ははじまったばかりです。これからもっと広がって行くことを期待しています。いわゆる福音派と呼ばれる教派の教会だけではなく、色々な教会に用いられるように願っています。ミッションスクールの礼拝で使用されることも視野に入れて、福音讃美歌協会の活動を広げて行きたいと思います。

『教会福音讃美歌』

編集者：福音讃美歌協会 讃美歌委員会

発行者：いのちのことば社

1,040ページ 506曲収録

定価：3,800円+税

発売記念特価：3,600円+税



表紙 スタンドグラス

抽象画

お詫び：初刷り、二刷りが予約分でほぼ完売し、10月現在、版元品切れ状態が続いています。年内に増刷予定です。ご迷惑をおかけしますが、もうしばらくお待ちください。（一部キリスト教書店には店頭在庫がある場合があります。お近くの書店にお問い合わせください。）

♪ 『教会福音讃美歌』を少し使って感じたこと

インマヌエル別府キリスト教会（大分県）

牧師 徳田文彦

時代のニーズに応じて『教会福音讃美歌』が出版されましたことを大変喜ばしく思います。御愛勞下さった方々に心から感謝を申し上げます。

実際に使い始めてまだ二カ月しか経っておりませんし、特別に音楽に関する知識を持っている訳ではありません。従って、専門的な何かということではなく、ただ地方教会の一牧師が使って感じたことを、ありのまま書くことをお許し下さい。

最初に、手に取り開いて感じたことは、字が大きく、とても見やすいということでした。これは高齢化が進んでいる時代であることを思う時に、とても良いと思いました。何人かの教会員からも同じ感想を聞きました。

次に、楽譜と共に、ページの右側に歌詞が載せられているのは、内容を理解する上で、とても助かります。楽譜だけの場合には、音符にほとんど平仮名が付いているために、歌っているだけで、余り良く内容を味わっていないようなことがあります。またコードネームやルビが付けられていて、より活用しやすくなっていることは感謝です。

更に、差別語や不快語がなくなり、分かりやすい言葉が使われていますので、安心して歌えますし、生き生きと歌えるのが良いと思いました。

今まで、音が高い曲がかなりあって、歌うのに少々きつい感じがしていましたが、少し下げて頂いているので、素人が歌うには歌いやすく助かります。

今後の課題は、新しい讃美歌をどうやって覚えていくかです。楽譜が読めない者にとって、またピアノやオルガンが弾けない者にとって、とても大きな課題です。今まではヒムプレーヤーを使って覚えていました。多分お考え下さっていると思いますが、新しい讃美歌を覚えるために、助けとなるものを早急に作って頂ければ有難いです。

♪『教会福音讃美歌』を手にとって

日本福音キリスト教会連合 若葉キリスト教会（北海道）

牧師 高橋秀幸

主の導きの中で『教会福音讃美歌』が発行され、それを手に取ることができたことに心から感謝します。私たちの教会の主日礼拝では、段階的に導入し、いずれは礼拝で用いる讃美歌集を『教会福音讃美歌』で一本化していく計画をもっています。礼拝ではまだ歌われていませんが、これからこの讃美歌集を用いて礼拝賛美がなされることに期待をしています。

私たちの教会の主日礼拝では、奇数月が『聖歌』、偶数月が『讃美歌21』に加え、毎回2、3曲の「ワーシップソング」を加えて賛美をささげています。私が育った教会でも、隔月で『聖歌』と『讃美歌』を用いていたので、讃美歌集が毎月変わることは慣れていましたが、私の中では、以前から「使用している讃美歌集を統一したい」という願いがありました。この『教会福音讃美歌』は、私たちが慣れ親しんだ歌集からバランスよく選曲されているので、私自身の長年の願いがこれでかなったと感じます。また、私たちが親しんでいる「ワーシップソング」のいくつかも含まれていることが素朴にうれしいです。

また、各曲にコードがついていることはよい点だと思います。奏楽者がすべて欠席した主日礼拝が数回あり、その時は私がギターで伴奏しました。その際、慣れ親しんできた曲は適当にコードをつけることができましたが、慣れない曲はかなり苦労しました。そういう面では、コードがついているのは助かりますし、安心です。

現在、「対照表」を作成しているとお聞きしましたが、今後、可能であれば、簡単にでも曲の背景などが記されたものが出されればよいと感じます。私は、恥ずかしながら、礼拝の曲を選曲することは相当苦手です。曲の説明集のようなものがあれば、主日礼拝の選曲の際に、曲を選びやすくなるのではないかと思います。私たちの教会は、毎月発行される月報の中に次月の礼拝計画をすべて掲載しており、メッセージの簡単なポイントや選曲の理由なども記されています。曲の説明集のようなものがあれば、その要点をも掲載することができるので、もっと礼拝に向けて深く準備することができるのではないかと思います。

これからも主を心から喜びつつ賛美していくために、『教会福音讃美歌』が用いられることを期待しています。

♪『教会福音讃美歌』を使用しての感想

日本福音キリスト教会連合 馬天キリスト教会（沖縄県）

野口桂子

神様のお導きのなか、長い時間をかけて祈りが積み、大変な編集の中で出来上がった教会福音讃美歌』を手にとって使用することができ、心から感謝いたします。

出版されるまでは、『あたらしい歌』という、教会福音讃美歌』の一部が掲載された歌集を導入として使用していました。その中の一曲を月の賛美と位置付け、一カ月続けて讃美し、礼拝の中で味わえるようになってきました。

奏楽の奉仕をさせていただく中では、奏楽者自身の聞きなれた讃美を選ぶ、という偏った選曲をすることが多くなりがちですが、神様の導きの中で選ばれたこの福音讃美歌を使用するときに、音楽委員会の中で新しい讃美にチャレンジしていこうという前向きな選曲をするきっかけも与えられました。また、聖歌、讃美歌以外の曲集を使い慣れていなかったこともあり、他の歌集の曲を選ぶとき、讃美の内容がうまく伝わるか・・・などの不安も多少なりともありました。この讃美歌集によって、神様にあつて自由に自然体で讃美、選曲していくことができることも感謝です。

これまで使用していた聖歌、讃美歌のほかに、学生時代によく聞いていた賛美等、様々な歌集の曲も含まれていて、幅広い年齢層の方々に紹介することができ、それも恵みの一つに挙げられます。コードがあることにより、奏楽の幅が広がることが期待でき、歌詞が楽譜の下についていることで、歌いやすくなったと感じています。

また、歌い慣れた讃美でも、これまでの歌詞とは違っていてまだ慣れないということももちろんあります。しかし歌詞が現代の私たちに理解しやすいということは、長く信仰生活を続けている方々はもちろんですが、特に新来者や若い方々にも讃美の喜びや恵みをより味わいやすくしてくれると考えます。これから、教会に集う会衆のみなさんが新鮮な気持ちで心からお捧げできるように、今後も主に期待して活用していきたいと思えます。

『教会福音讃美歌』の編集・出版における数々の御労が豊かに祝され、より多くの教会で神への賛美と信仰成長、宣教の御業のため用いられますようにお祈りいたします。

♪『教会福音讃美歌』をスーツケースに忍ばせて

グリニッチ福音キリスト教会（アメリカ合衆国コネチカット州）

牧師 立石尚志

私たちの教会はヒョットしたら、海外日本語教会で『教会福音讃美歌』を公式歌集として導入した光栄ある？第一号かも知れません。

グリニッチ教会は今までぐっと堪えて『聖歌』『讃美歌』を使用して来ましたが、今夏、『教会福音讃美歌』がいよいよ発売になると聞き、話し合いの末、この新しい歌集の導入を決断しました。教会備付け用、個人販売用30冊、そして9月初めに行われた東海岸日本語教会合同ファミリーキャンプでのプロモーション用として16冊（ある方からの委託）、合計46冊を密輸・・・ではありませんが、夏場の一時帰国メンバーたちが手分けしてスーツケースに忍ばせて持ち帰りました。キャンプではそれぞれの教会の牧師たちが喜んで受け取ってくださり、グリニッチ教会ではさっそく9月第2週から礼拝で使い始め、4週間経ったところです。

熟年の兄弟は開口一番「さすが今の時代の物は高齢者向けにできていて見やすいですね」とひと言。ご高齢の姉妹は「ちょっと重たいわ」。何はともあれ、先ずは使いやすいという印象です。まだまだ数曲、しかも今まで賛美してきた曲を選んでいただけなので、新しく訳し直された他の曲がどのように馴染んで来るのか、未知数ですが、期待しつつ使っています。クリスマスは『讃美歌』を使って来たのでどうなるかドキドキです。多くの曲にコードが付されているので、ギター、キーボードでの演奏にも便利ですし、定番のワーシップソングも取り入れられているので感謝です。今はとにかく、この歌集を使う回数を増やそうと努力している所です。

まわりの米国人福音派教会のほとんどが賛美をスクリーンに投影している時代であり、日本語教会でもそれに倣い賛美歌集を使わない教会が増えてきています。スクリーンに歌詞を投影することで顔を上げて賛美できますし、賛美を生活化するなら賛美をiPhone、iPod、スマートフォンに入れさえすれば、どこへでも持ち運べる時代です。そのような中、なぜ今の時代に賛美歌集？という疑問もあるかも知れません。私の目指しているイメージはこれです。将来もつと安くなった未来のヒムプレーヤー（讃美歌自動演奏機）を前に、クリスチャン夫婦が手あかで汚れたこの賛美歌集をそれぞれ手にして、毎晩、神を賛美し、デボーションしている姿…いかがでしょうか。

『教会福音讃美歌』を使いやすくするためのツール、情報

ホームページでご覧いただけるもの (2012/9月末現在) <http://jeacs.org/>

- ・収録曲一覧 (現在、506曲のうち324曲にMidiによる音源が付いています。)
- ・「まえがき／使い方」、「目次」、「巻末索引」

ホームページにアップ予定のもの

- ・修正一覧表 (2012/10月アップ予定)
- ・既存歌集との対照表 (2012/10月アップ予定)
- ・楽曲解説 (準備中)

多くの讃美歌を紹介している The Cyber Hymnal という優れた英語のサイトがあります。The Cyber Hymnal の管理者と連絡を取り、解説を日本語に翻訳してホームページに掲載する許可をいただきました。新しい作品についても独自に解説を書き下ろし、合わせて掲載する予定です。 The Cyber Hymnal のURL : <http://www.hymntime.com/tch/>

制作を予定しているもの

- ・『点字版・教会福音讃美歌』 (2012年12月発売予定)
 - ◎予価 3,800円
 - ◎お申し込み・お問い合わせ： 福音点字情報センター (いのちのことば社)
東京都中野区中野2-1-5 電話 03-5341-6931
 - ◎点字版のための献金先： 郵便振替口座 00100-9-61224 「福音点字情報センター」
- ・ヒムプレーヤー
- ・CD (『教会福音讃美歌』名曲選)

著作権関係のリサーチと整備

・讃美歌をとりまく著作権環境は、日本ではまだ十分整備されているとは言えません。欧米では、クリスチャンの著作権管理団体があり、スクリーン投影やインターネット配信など、さまざまな利用形態について利用しやすいリーズナブルな管理を行っています。福音讃美歌協会では著作権委員会を設けて、正しく利用しやすい環境の整備に取り組むため、著作権法や管理団体との契約内容、教会のニーズのリサーチを始めました。

❖ INFORMATION ❖

♪ 『教会福音讃美歌』 奉獻礼拝

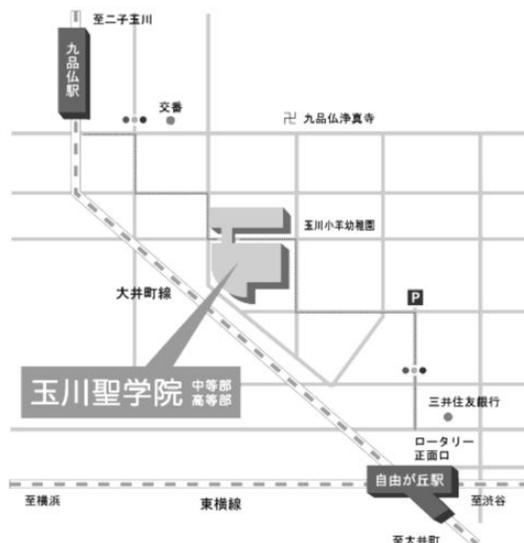
福音讃美歌協会ではこの夏『教会福音讃美歌』を完成、発行いたしました。感謝の思いを込めて奉獻礼拝を行います。奉獻礼拝では新しい讃美歌集を用い、オルガン、ピアノ、バンドで奏楽、聖歌隊、会衆で、共に礼拝をおささげします。

■日時：2012年11月12日（月）19:00～20:30（開場18:00）

■場所：玉川聖学院・谷口ホール

説教：安藤能成
司式：田中進
総指揮：植木紀夫
聖歌隊指揮：井上義、下川羊和
オルガン：内藤真奈
ピアノ：斉藤とし子
バンド：Hands
教会福音讃美歌聖歌隊

東急東横線・自由が丘駅下車徒歩7分または
東急大井町線・九品仏駅下車徒歩5分



♪ 讃美歌についての集会を企画してみませんか。

礼拝説教、伝道会、修養会、讃美についての学び、音楽奉仕者の研修や講習などに、福音讃美歌協会の理事、讃美歌委員を派遣いたします。ぜひお招きください。

- ・お問い合わせ info@jeacs.org
- tel.03-5341-6920 fax.03-5341-6921 (いのちのことは社出版事業部内)

♪ 「福音讃美歌ジャーナル」投稿募集

福音讃美歌協会の働きへのご意見、ご希望、讃美についての思い、教会での取り組みの紹介など、皆様からの投稿をお寄せください。

- ・原稿は600字以内。
- ・電子メールにテキスト書類を添付し、住所、氏名、電話番号、所属教会を明記の上、福音讃美歌協会 (info@jeacs.org) までお送りください。
- ・次号 (2013年4月発行予定) 掲載分の締切は、2013年2月末日です。
- ・掲載誌の発送をもって採否の発表に代えさせていただきます。

＊ 会 計 報 告 ＊

2012年4月-2012年9月

■収入の部■

科 目	2012年度予算案	2012年度中間報告
会員負担金	1,310,000	944,000
正会員	750,000	750,000
準会員	60,000	0
賛助会員	500,000	194,000
自由献金	300,000	47,000
その他	0	24
当年度収入合計 (A)	1,610,000	991,024
前年度繰越金	677,406	677,406
収入合計 (B)	2,287,406	1,668,430

■支出の部■

科 目	2012年度予算案	2012年度中間報告
理事会費	170,000	69,865
委員会費	410,000	92,029
人件費	360,000	170,000
事務費	155,000	63,429
ジャーナル発行費	430,000	206,230
カンファレンス開催費	220,000	27,180
総会開催費	30,000	6,216
JEA関係費	50,000	31,000
予備費	80,000	0
当年度支出合計 (C)	1,905,000	665,949
当年度収支差額 (A) - (C)	-295,000	325,075
繰越額／残高 (B) - (C)	382,406	1,002,481

【賛助会費納入者】 (2012年4月～2012年9月)

大宮キリスト教会、キリスト教朝顔教会、栗橋キリスト教会、菅生キリスト教会、世田谷中央教会、馬天キリスト教会 (6教会) 刑部照美、稲垣博史・緋紗子、岩下シノブ、小林義正、高橋和江、中山信児、藤本侃也、横倉知恵、(8件)

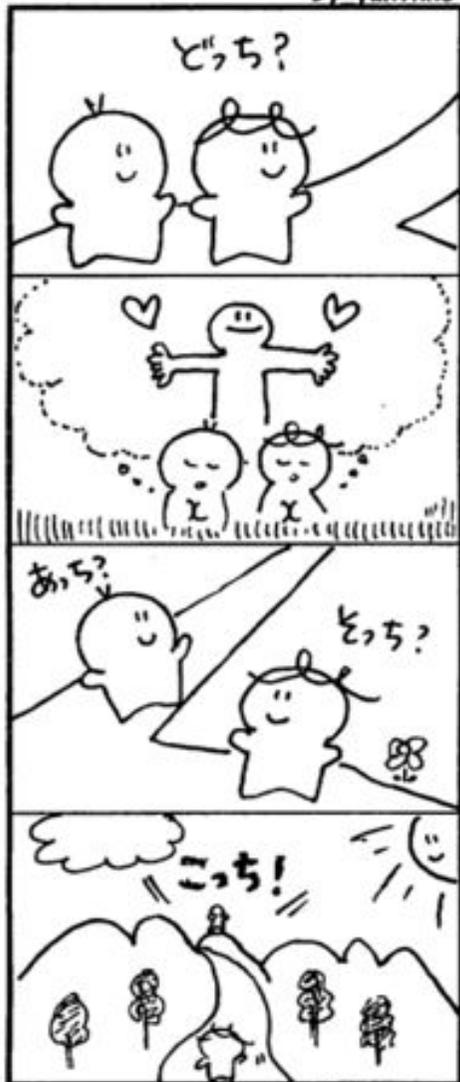
【献金者】 (2012年4月～2012年9月)

大磯キリスト教会、川越聖書教会、こどもの国キリスト教会、浜松中沢教会、武蔵台キリスト福音教会、中山信児、小林由貴子、公文由佳、西川晴子、(9件)

お名前の掲載を希望されない場合は、通信欄に匿名希望とお書きくださるか、メール (info@jeacs.org) で、その旨をお知らせください。

ハレルヤほうや

by yukinko



ミカ4:2

福音讃美歌協会・会員募集

◇会員の種別は、以下の三種類です。

正会員（教会・教団・教派等）、準会員（超教派団体・グループ等）、賛助会員（趣旨に賛同し支援してくださる教会、個人等）

◇賛助会員のお申し込みは、入会申込書をご請求いただき、必要事項をご記入の上、郵送またはFAXでお送りください。承認後、年会費のお振込みにより入会が完了致します。

◇正会員、準会員のお申し込みにつきましては、協会へ直接お問い合わせください。

◆郵便振替口座◆

番号 00220-1-95127

名称 福音讃美歌協会

◆郵便貯金口座（ばるる）◆

番号 10500-82654721

名称 福音讃美歌協会

◆銀行口座◆

みずほ銀行 ユーカリが丘支店

普通預金 口座番号 1604668

名称 福音讃美歌協会

一般社団法人 福音讃美歌協会 JEACS

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-1
OCCビル 602号室

tel.03-5341-6920 fax.03-5341-6921

(いのちのことば社出版事業部内)

ホームページ <http://jeacs.org/> メール info@jeacs.org

From Editor

編集後記

『教会福音讃美歌』を手にされた皆様は、この歌集を、そしてここに取められた五百六曲をどのように受けとめてくださったでしょうか。編集、翻訳、作詞に携わった者としては、その一曲一曲に深い思い入れがあります。けれどもそれらをどのように受けとめ、どのように評価し、どのように用いるかは、手にされたひとりひとり、それぞれの教会に委ねられていることです。

讃美歌集編纂の働きは制作に携わった者たちだけのものではありません。直接には制作に携わらなかった多くの方たちの祈りと献げ物があつて初めてこの働きは完成を見ることができました。その意味で、この働きは教会の働きでした。そして教会に志を与え、しもべたちを用いて事を行わせてくださったのは、教会の主である神ご自身です。主こそが『教会福音讃美歌』の真の制作者、真の所有者と云うべきでしょう。

十一月に行われる奉献礼拝の意義は、私たちが今まで直接間接に携わってきたこの讃美歌集を、主なる神にお献げするところにあります。しかし、主に最善をお献げすることができたとしても、人間の働きには欠けも過ちもあります。私たちが願うのは、主がこの『教会福音讃美歌』を受け入れてくださり、聖めて、ご自身の御業のため、ご自身の教会のために豊かに用いてくださることです。そのため私たちがこれを主の御手にお返ししたいと願っています。

(な)